

災害連絡会議委員および協力会員の初動調査報告（メール報告抜粋）一覧

2011年3月18日更新

日時 (報告日時)	都道府県	報告者	内容(メールから抜粋)
2011/03/13 13:25	千葉	小宮 一仁 (千葉工大)	<p>津田沼駅前にある校地に地上100メートル(20階建て)のツインタワー2本目の新校舎が3月3日に竣工し、今月一杯は全学で引越期間です。私の研究室は、今回新校舎に引っ越すことになり、3月10日～11日が荷物・家具の移動日で、まさにこの最中に地震がありました。11日、私は、午後荷物・家具の移動を業者と学生にまかせて、2年前に竣工したツインタワー1本目の校舎の2回の会議室で大学院入試の面談を行っている最中に地震があり、大きな長周期の揺れを長時間体験しました。旧校舎ではガラスが割れて落下していました。その後は校地が広域避難所に指定されているため、一般人を含め約2000名の帰宅困難者+避難者が校地内で夜を過ごしましたので、徹夜でこの対応に追われました。この対応の合間を見て11日夕方に新研究室(竣工したばかりのツインタワー18階=地上90メートル付近)の様子を(階段を上がって)見に行きましたが、幸い荷物を詰めた段ボール箱の山が崩れただけで、家具等は(荷物を詰める前だったため)転倒もなく大事には至りませんでした。(この時、東京湾の向こうに市原のガスと製油工場の火災の火が見えました。)しかし、先に引越を済ませ、既に家具に本等を詰めた19階の研究室は(引越草々)家具はほとんど倒れ、部屋への入室も困難な状況でした。私の旧研究室と実験室(旧校舎7階)の状況も見に行きましたが、窓ガラスは割れ、残っていた家具が転倒してひどい状況でした。</p> <p>京葉線の新習志野駅前にある一般教養の校舎は埋立地のため液状化が発生しており、校舎と地表の間に段差が出て噴砂が起きています。津田沼駅前の校舎に避難してきた複数の教職員が発生時の状況を目撃していましたので、発生時の詳しい状況をインタビューすると共に、後日撮影した写真の提供を依頼しました。</p> <p>千葉県では、今回の地震で13名の死者が出ておりますが、このうち9名は津波、他は転倒・ショックにより亡くなったものです。現状では余震が続き津波注意報も解除されていないため、房総半島+九十九里地方の詳細な調査は出来ない状況ですが、本日は研究室の大学院博士課程の大学院生数名に協力してもらい、船橋～千葉の間の東京湾沿岸の埋立地の調査を行っています。明日以降は、修士課程の大学院生+新卒論生を加えて調査範囲をできるだけ広げます。</p>
2011/03/13 18:56	神奈川	規矩 大義 (関東学院大)	<p>神奈川近辺の港湾関係の被害は、緊急の対応が落ち着いてから教えていただくように港空研に依頼、横須賀の宅地被害(滑ったらしい)は、都市部開発指導課に後日情報をいただくように依頼した後、大学から横浜方面に向かいました。</p> <p>漁港は金沢、福浦、柴の3港とも無被害(関係ありませんが、養殖の施設は被害があったとのこと)</p> <p>地盤関連では、</p> <p>1)八景島と隣接する福浦町の埋立地 液状化(領域としては狭い)被害あり。噴砂は結構激しい。ただし、既に市の手配で清掃が済んでいた。 警備員の話では、一度目の地震で噴砂が吹き始め、2度目の地震で駐車場の路盤が急に波打ったとのこと。 八景島は被害がある模様ですが休園で入れていません。</p> <p>2)R357の橋梁 液状化により橋梁の取り付け部が左右に開き、アバットが沈下、使用不能になっている。 橋脚周囲に噴砂が多量。</p> <p>3)柴町埋立地の住宅 液状化による周辺地盤の沈下で、下水が使用不能に 市が仮設トイレを提供 周辺のマンホールが浮き上がったようだが、すぐに復旧でアスファルトを打ってしまっていた。 3月の復旧工事は早い。 駐車場が1m以上、大きく浮き上がっていた。3階建ての駐車場(よくマンションにある入れ替え式の)を地下に埋めている。 (景観上いいかららしい)ために、マンホールと同じように浮き上がり、大きな被害。 周辺も激しい液状化が生じていた。</p> <p>4)本牧埠頭 水道管の敷設工事直後の埋戻し土が液状化(おびただしい噴砂) 集合住宅の周囲で液状化が生じ、周辺地盤が沈下、それによって線路が浮いてしまっていた。</p> <p>といった被害です。 千葉の液状化ほどではありませんが、地形や履歴の影響を大きく受けた被害のようです。 また、甚大な被災地ではないので、普段の地震被害なら結構残っているのですが、原因究明なしに、あっという間に復旧されてしまっている様子です。</p>
2011/03/14 13:46	岩手	山本 英和 (岩手大)	<p>ようやく岩手大学のメールサーバーが復旧した模様です。 私の周りの盛岡の状況を簡単に報告します。 #岩手沿岸の状況はみなさまが報道でみているとおり悲惨な状況です。</p> <p>盛岡の状況としては、地震当日直後は停電、市内全域でしょうか。 断水は半分くらいの地域でした。 夜はかなり寒いので停電時は反射式ストーブくらいしか暖を取る方法がありません。 布団や毛布だけでした。人々も多数いたようです。</p>

日時 (報告日時)	都道府県	報告者	内容(メールから抜粋)
			<p>日曜夜までに市内の停電が復旧した模様です。岩手全体ではまだままだのようです。ただし、ガソリン灯油食料などが不足して混乱状態になっています。</p> <p>大学は日曜までロックアウトした状態です。 地震の揺れで本棚などが倒れたり、機器などが壊れたりした研究室もあります。 本日は被害箇所の復旧作業やかたづけとなっています。 最優先事項として、教職員や学生の安否確認も現在行われておりますが 春休みの時期のため、確認できない学生が多数いそうです。 実家、親戚が被災した学生も多数います。</p> <p>とりあえず、14日13時30分ころの現況報告です。</p>
2011/03/14 14:55	秋田	及川 洋 (秋田大)	<p>秋田市内も大きく揺れました。しかし、学内には大きな被害は無かったため、12(土)の後期日程試験は停電、断水(トイレ使用不可)、無暖房の中、実施されました。受験生には寒い思いをさせました。</p> <p>停電、断水は12日の夕刻には復旧しましたが、電話は全然ダメです。また、試験終了直後、キャンパスは今日(14日(月))の朝まで閉鎖されました。</p> <p>秋田では太平洋側への旅行者の安否などのニュースはありますが、地盤工学的な被害は報告されていません。</p> <p>東北支部役員もかなり被災されているものと予想され、被災のない我々が具体的にどのように動けばよいか、思案中です。</p>
2011/03/14 18:28	青森	片岡 俊一 (弘前大)	<p>弘前は、震度3～4の揺れでしたので、建造物の被害などは出ていません。ただし、揺れている最中から大学は停電しました。結局、青森県全域で停電となりました。弘前市はほぼ丸1日停電でした。土曜日の午後以降は、水、ガス、水道に問題は殆どありません。</p> <p>ただし、物流が途絶えてきており、ガソリン、灯油の不足が目立ちます。スーパーにおける食料品もだいぶ、少なくなってきました。</p> <p>さて、被害調査ですが、次のように考えています。 岩手県南部、宮城県への調査については、高速道路が使えないので、使えるようになるまで待つ。 八戸市周辺については、八戸工大の先生方と相談して、分担する。 八戸から北側については、今週の木曜日、金曜日に見て回る。 ただし、青森県内の震度は5強となっておりますことから、地震動被害は少ないものと考えております。</p>
2011/03/15 19:32	群馬 栃木	若井 明彦 (群馬大)	<p>今日までの4日間の調査の速報をお送りいたします。必要に応じてダウンロードいただければ幸いです。</p> <p>http://geotech.ce.gunma-u.ac.jp/~wakai/doc/Wakai20110315.pdf (参考までに、写真等を除いたテキスト部分のみをこのメール末尾に記します)</p> <p>群馬大学は計画停電の第4グループに属しており、毎日停電対象となります。当方のサーバが稼働している時間帯にダウンロードください。</p> <p>Web上にアップしてあるPDFファイルは、斜面災害を中心に栃木県南部(および群馬県東部)を巡回した速報です。特に那須烏山市の周辺は民家への被害も多く、時間がなくて網羅的な調査を行っておりません。改めて精査する必要性を感じます。</p> <p>群馬県ではそれほど大きな被害はありませんでしたが、自宅(伊勢崎)近くの国道354号線の利根川を渡る橋梁が中央部(構造形式の変わる部位の橋脚上)で段差を生じて通行止めになっています。沓が潰れたように見えますが、路面のエクспанションに車両通行困難なギャップが出ています。</p> <p>被災地ほどではありませんが、群馬県内もガソリンが逼迫しており、燃料に不安を感じながらの調査になっているのが実情です。</p> <p>(1)現場: 源五郎沢 鉦滓堆積場の表層崩壊 @ 栃木県 足尾町 原向(はらむこう) 概要: 草木湖上流の渡良瀬川左岸(国道122号線の対岸)。Tailings Damの上部表土が地震動により崩壊。堆積場下の鉄道(わたらせ渓谷鐵道)を埋め、一部は河道内(渡良瀬川)に達した。大型土嚢により河道確保(3/14時点)。河道の低水路の幅が5m程度に狭窄しているが、崩壊した土量もそれほど多くはないため、再発を防げれば、即座に河道が閉塞する危険性は低いと思われる。なお、川水から環境基準の約2倍の鉛が検出されたとの報道があるが、流下中に希釈されるので下流の桐生市等への市街地の水道水への影響はないとのこと(asahi.com 3/13)。</p> <p>(2)現場: 地すべり、土砂の長距離移動 @ 栃木県 那須烏山市 神長(かなが) 概要: 本震により沢地形内部で地すべりが発生(その時点では家屋被害なし)。それに次ぐ大きな余震の際、範囲がさらに拡大して移動土砂(約100m移動?)が民家3軒に達した(住民の方の証言に基づく)。土砂に完全に埋没した1軒からは地震翌日に2名の遺体が発見されている。斜面の平均勾配は20°前後。調査時点(3/14)では、崩壊地内は下半を中心に崩積砂礫の中に軟弱な青灰色粘土(非常に軟弱であり、地すべり機構の一部に関連したと考えても矛盾がない)の塊が所々に混じり、水溜りが点在。下半部の土砂の含水率が極めて高い状態であるため、排水工等を施すための工事が着手されていた。住民の方の証言によると、地震前には谷間を緩傾斜の雑木林(竹・笹類が優勢)が覆っており、一部には開墾した栗林があった(地震後も上部は存在)とのこと。尾根直下の頭部崖は旧期のすべり痕か。</p> <p>(3)現場: 切土のり面の変状(県道10号;宇都宮那須烏山線) @ 栃木県 那須烏山市</p>

日時 (報告日時)	都道府県	報告者	内容(メールから抜粋)
			<p>概要: 宇都宮方向の車線側の切土のり面の基部に当たる道路面が 20cm 程度の隆起(隆起の背にはクラック)。変状の特に顕著な区間は 5m 長程度(微変状はさらに 2 倍くらい)。隆起部は波打つような形状。のり枠も小さな破損あり。のり面内部を貫通する(潜在)すべり面の末端が道路面に現れたのではないかと推定される。</p> <p>(4)現場: 道路盛土の変状(県道 10 号;宇都宮那須烏山線) @ 栃木県 那須烏山市 概要: 那須烏山方向の車線側の盛土部(ブロック擁壁上の盛土の区間;そのうち、盛土の最上部に土留めの存在する区間が一部含まれる)に当たる道路面がお椀状に鉛直 20cm 程度? の沈下域あり。沈下区間は 50m 長程度。路肩は水平方向に変位しており、側溝のブロック等に若干の開きあり。</p> <p>(5)現場: 河岸段丘の地すべり(国道 408 号を閉塞) @ 栃木県 宇都宮市 板戸町 概要: 県道 64 号バイパス板戸大橋の高根沢町側(鬼怒川左岸)の河岸段丘(上部は畑利用)の肩部分が連続的に 200m くらい頭部にクラックもしくは滑落。地すべり状に顕著に滑り落ちたのは二箇所。比高約 20m、傾斜約 60° の崖が崩落していずれも下部の道路を埋めた。</p> <p>(6)現場: 岩船山の岩盤崩落 @ 栃木県 岩舟町 概要: 岩船山(標高 170m)の岩盤が所々で崩落。第三紀中新世(グリーンタフ?)。特に大きな崩壊は西側 2 箇所。</p> <p>(7)現場: 道路盛土(県道 336 号 梨木香林線)の変状 @ 群馬県 桐生市 概要: 切り通し部脇の腹付け盛土(切り盛り境)から谷側一車線の半分強がお椀状に約 20cm 沈下(2 箇所)。</p>
2011/03/15 20:17	埼玉 千葉	桑野 二郎 (埼玉大)	<p>昨日アメリカから帰国し、本日幸手市西関宿の江戸川右岸堤防の被災箇所を見てきました。既に安田先生からご報告のあった通りです。復旧工事が始まっており、民家側へ盛り上がった土は既に除去されていました。対岸堤防(河川側)もすべており、あの場所だけが被災したのは理由がありそうです。渋滞などもあって、今日はそこしか行けませんでした。ガソリンがもう十分に無いため、しばらくは動けません。</p> <p>ダラスに出張しようと 3/11 に成田空港へ行き、4F に上がろうと B1 でエレベータを待っているときに地震が起きました。そのまま空港に 1 日少々足止めになりました。</p> <p>帰りに成田に着陸する前、利根川の上を飛んでいる時に、多分霞ヶ浦に割と近い辺りと思いますが堤防にブルーシートがかかっているのが 2ヶ所見えました。 (その周辺の水田が水を被っているように見えたのですが、なにぶん遠目です) その少し上流、高規格道路に見える橋の建設地点(まだ橋脚だけでした)の左岸側の取り付け部すぐ下流寄り、旧河道の形に黒く見えたのも、もしかしたらです。</p>
2011/03/16 23:41	群馬 埼玉	若井 明彦 (群馬大)	<p>今日は利根川に沿って周辺を遡上してみました。群馬県内では唯一と言っていいと思いますが、兼ねてより高い液状化危険度が指摘されていた板倉町周辺の低地部も(見た範囲内では)液状化無被害でした。</p> <p>その後、西関宿(江戸川)の堤防の変状現場へ向かいました。</p> <p>安田先生が 13 日にレポートされた現場がちょうど良い頃・・・すなわち、そろそろ緊急復旧工事で盛土を剥がしている頃ではないかと想像して、盛土内の材料(液状化層があるのかどうか)が見えるかどうかを期待しての調査です。</p> <p>結論から申しまして、安田先生ご指摘のように、やはり液状化による脚部の強度消失が滑動の直接的要因であった可能性が高いように思われます。</p> <p>ちょうど今日午後は、堆積土砂の撤去とのり面の切り直し(暫定)は完了しつつある模様でした。堤防のり面の切土面から堤防内材料の状況を確認したところ、小段より上の切土面の最上部には腐食土混じりの表土がありましたが、それより最下段の切土面の中間深くらいまではローム系? また最下層には比較的粒径の揃った細砂層(のり尻から約 1m くらいの厚さ)が存在することが確認されました。境界は明瞭ではありませんが、明らかに“砂だけ”で構成される地層が存在します。押し出し土砂が堆積していたと思われる付近では砂が噴出もしくは流れたような痕跡もありました。若干の地下水滲み出しのため当該部分は含水率が高いままです(一部水溜り)。</p> <p>本日の写真は添付ファイルをご覧ください。取り急ぎ。</p>